

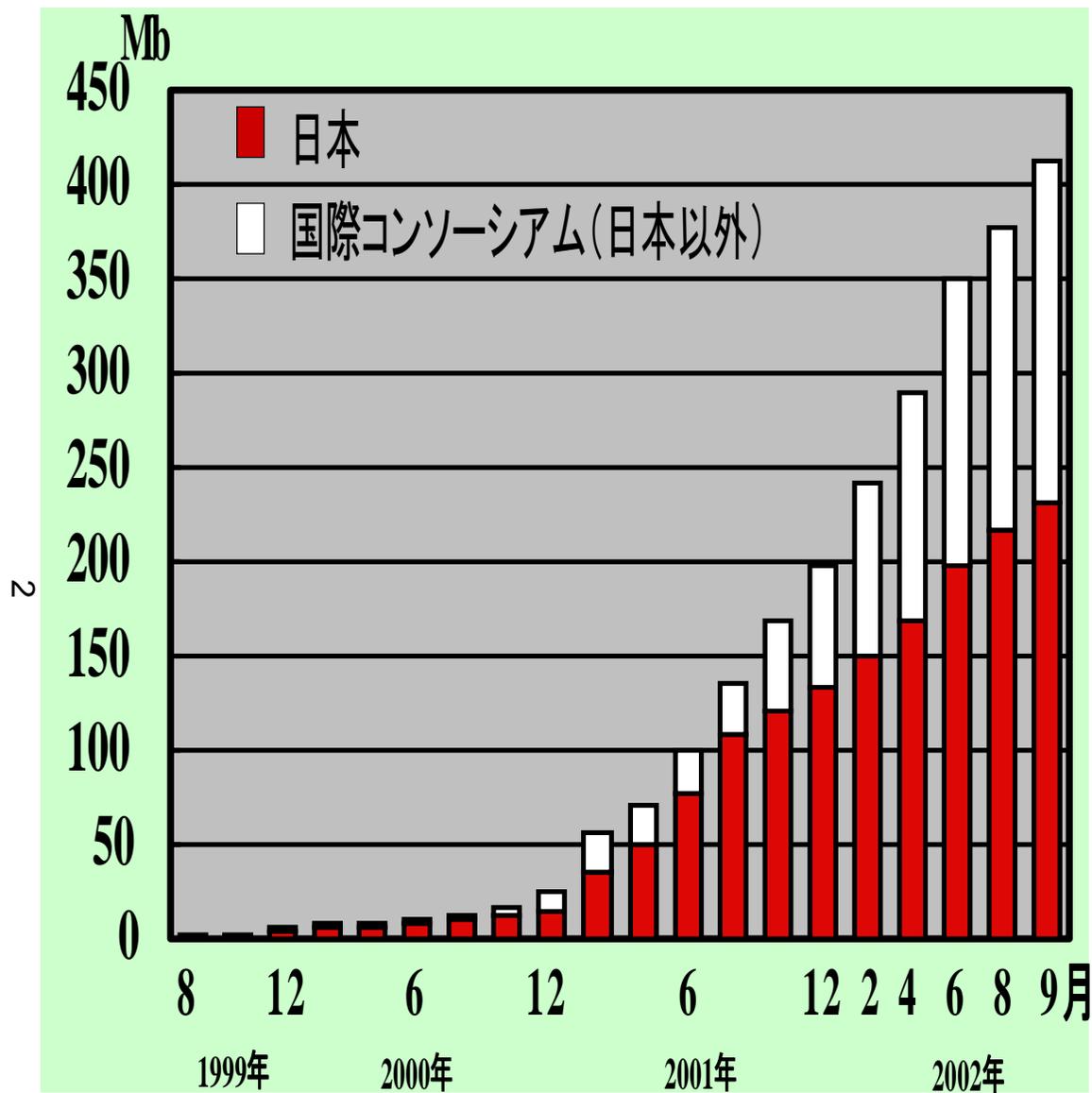
## イネゲノム塩基配列の重要部分解読終了について

平成14年11月11日

農 林 水 産 省

- 1 我が国を中心とする国際イネゲノム塩基配列解読プロジェクト（国際コンソーシアム）では、イネゲノムの塩基配列について、本年中に重要部分の解読（P H A S E 2）を終えることを目標に、これまで、精力的に作業を進めてきたが、12月上旬にも解読終了を確認できる状況。
- 2 イネゲノム研究は、我が国が世界をリードし、その貢献度も群を抜いている（イネゲノム解読の約6割は日本の実績）ことから、12月18日（水）に国際コンソーシアムメンバーが結集し、我が国において解読宣言を行う予定。  
また、米国政府においても、日本とタイミングを合わせ、ワシントンで記念行事を開催する予定。
- 3 今後は、植物生命科学の発展と21世紀の食料問題・環境問題への対応に資するため、塩基配列の完全解読（P H A S E 3）に向け、残されたギャップ部分の解読を進めるとともに、解読した塩基配列データ等を基に、農業・その他産業利用等に向けた有用遺伝子の機能解析研究を重点的に進めて参る所存。

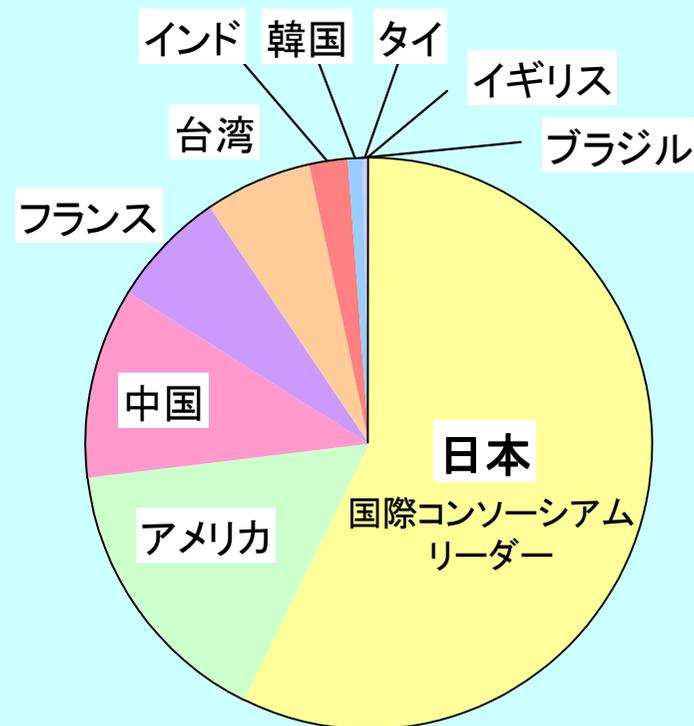
# 国際コンソーシアムによるイネゲノム塩基配列解読状況



イネゲノム塩基配列解読累積(1Mb=百万塩基)

2002年12月に重要部分の解読(PHASE2)終了

## 国際コンソーシアム



国・地域	分担割合(%)
日本	55
アメリカ	18
中国	10
フランス	7
台湾	6
インド	3
韓国	1
タイ	0.3
イギリス	0.1
ブラジル	0.1

# 研究成果の活用目標

## 育種

## 活用分野

### 短・中期目標

**産学官コンソーシアム**

- 機能性付与イネの開発  
(鉄分増強、低コレステロール、糖尿病予防、花粉症予防等)
- 環境ストレス耐性植物の開発  
(低温耐性、乾燥耐性等)
- 環境修復・モニタリング植物の開発  
(ダイオキシン、重金属吸収等)

**公的セクターとの連携**

- DNAマーカーを用いたイネ品種の開発  
(早生種、ビロウカ抵抗性、いもち病抵抗性等)
- 低農薬栽培用イネの開発  
(いもち病抵抗性+ウンカ抵抗性等)

- 健康・食品産業への貢献
- 食料生産への貢献
- 環境保全への貢献
- 食料生産への貢献

**植物工場**  
(機能性物質の生産技術の開発・医療成分生産)

**新しい健康食品**  
植物由来の遺伝子を用いた、健康機能性物質を蓄積するコメ

**多機能イネの開発**  
(総合利用型イネ)  
種子: 食料として利用  
葉: エネルギー素材

**検査・分析技術の産業化**  
アレイを用いた食品の検査・科学分析

### 長期目標

21世紀の食料問題、環境問題に対応した画期的な作物の開発  
(超高収量イネ、汚染土壌改善作物、エネルギー作物の開発)

新植物産業創出

